

4 温室効果ガスの削減目標

- 2030年度と2050年は、現行計画から変更しない
- 2035年度と2040年度の削減目標(設定有無含む)について、今回の「部門別の緩和策」に対する議論内容を踏まえて、次回、審議予定

25

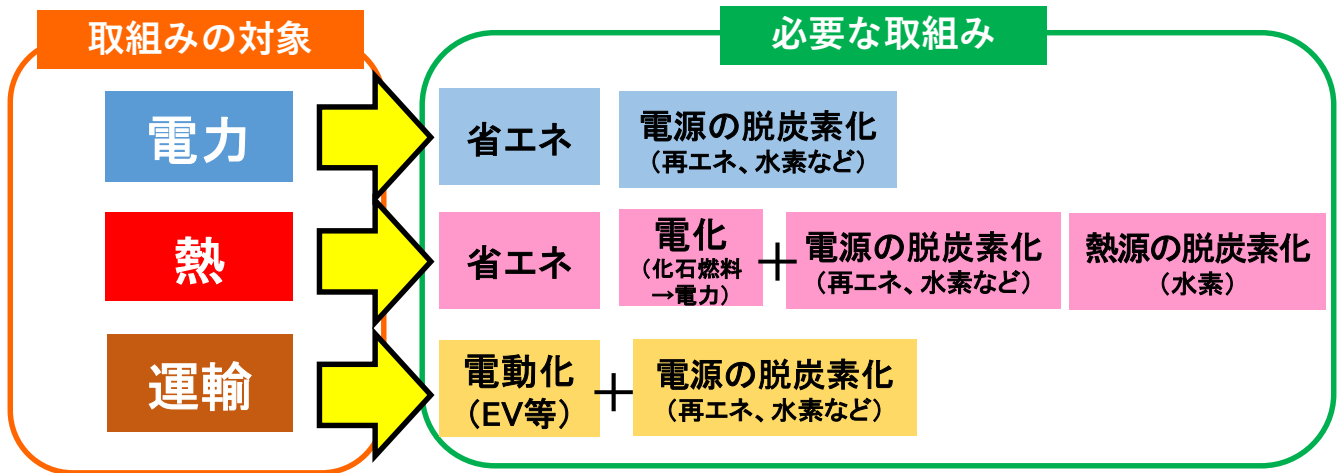
5 2050年に目指す脱炭素社会

- 2050年カーボンニュートラル(ゼロカーボンシティ)を目指すことについては変更しない

26

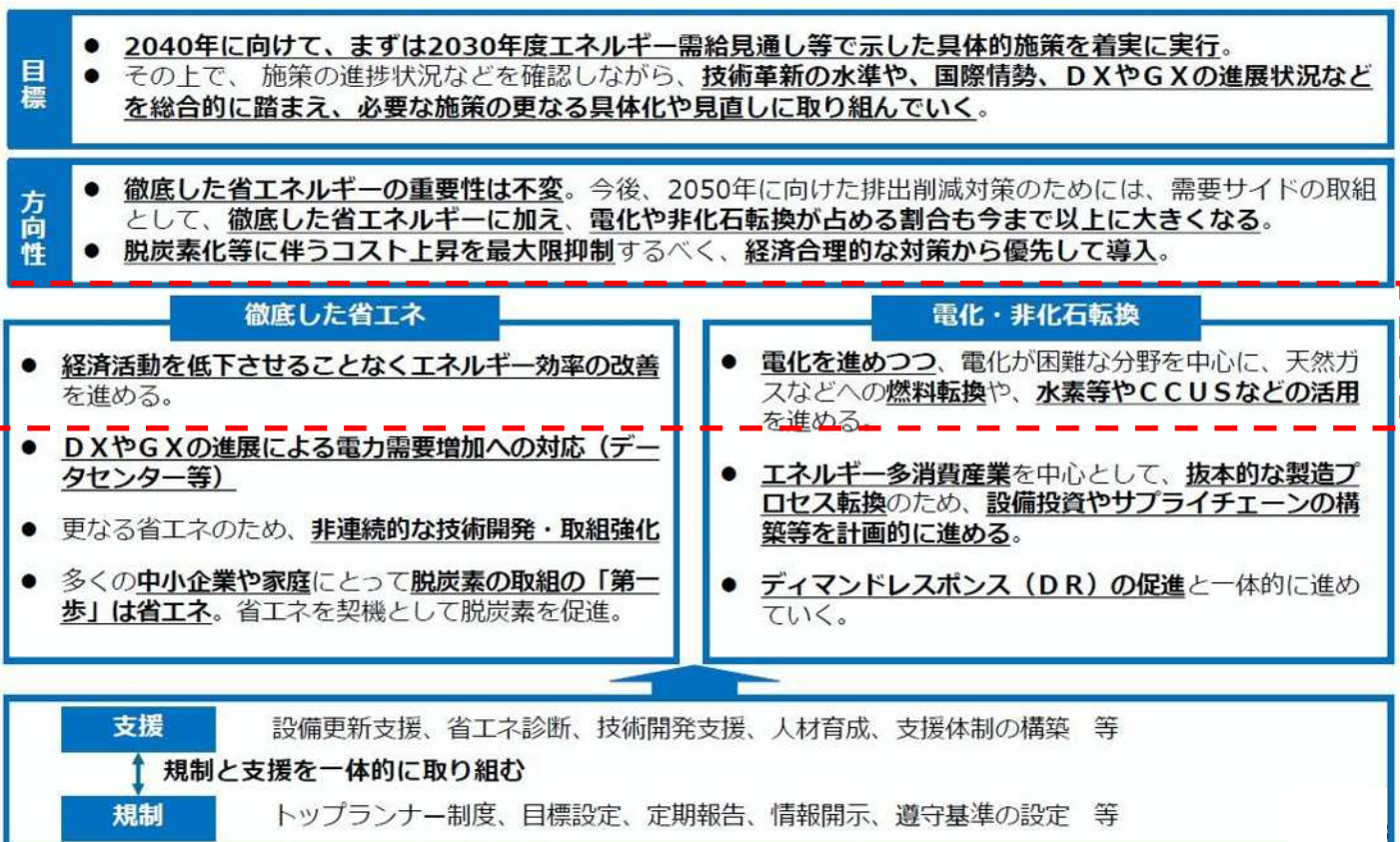
取組みの方向性

まずは「徹底した省エネ」に取り組むとともに、
「電力部門の脱炭素化(再エネ導入)」と「非電力部門の電化」を進めつつ、
 電化が困難な分野においては**「水素等の供給・利活用」**を推進する

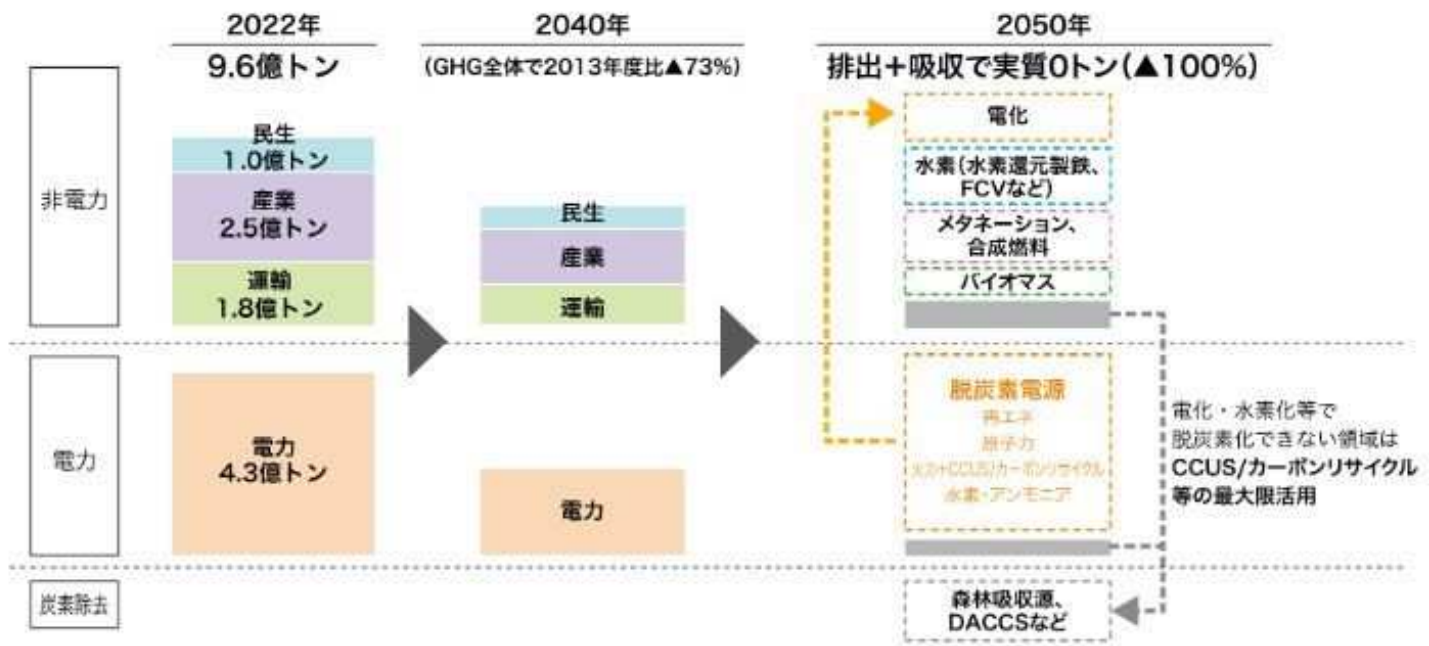


27

(参考)エネルギー需要側の全体像(第7次エネルギー基本計画)



(参考)2050年に向けた更なる脱炭素化の方向性(カーボンニュートラルへの転換イメージ)



※数値はエネルギー起源CO₂
 DACCS(direct air capture with carbon storage) : 大気中にすでに存在するCO₂を直接回収して貯留する技術

出典：日本のエネルギー 2024年度版（2025年3月/資源エネルギー庁） 29

北九州市が目指す2050年の脱炭素社会(ゼロカーボンシティ)

環境と経済の好循環による脱炭素化を軸に、都市や企業の価値・競争力を高め、快適で災害にも強く、誰もが暮らしやすい社会を目指す

